

令和8年度第1回逗子市自殺対策計画推進懇話会 議事概要

日 時 令和8年8月6日(木) 14時00分から16時00分まで

場 所 逗子市役所5階会議室

出席者 (アドバイザー) (一社) 逗葉医師会 瀬尾勲

神奈川県司法書士会横須賀支部 小保内洋子

(メンバー) 公募市民 塔本邦彦、福本浩子

逗子市民生委員児童委員協議会理事 水野千春

民生委員・主任児童委員 飯野幸

神奈川県逗子警察署生活安全係長 滝田実

神奈川県鎌倉保健福祉事務所主査 印部良介

逗子市教育研究相談センター主査 石澤方理

欠席者 (メンバー) 社会福祉法人逗子市社会協議会地域生活支援係長 漆垣かなえ

傍 聴 1名

事務局 国保健康課 山下課長、青山副主幹、梶山副主幹、竹内、武藤、村木

配布資料 【資料1】自殺対策の基礎知識と逗子市自殺対策計画の概要

【資料2】令和7年度 自殺対策計画全体評価

【資料3】令和8年度 国保健康課自殺対策事業一覧

【資料4】令和7年度 逗子市地域福祉計画進行管理表

【参考資料1】逗子市自殺対策計画推進懇話会運営要綱

議事概要

1. 開会

課長あいさつ及び資料確認、出席者紹介

2. 議題

(1) 自殺対策の基礎知識と第2期逗子市自殺対策計画の概要について

<事務局より>

(資料1に沿って概要説明)

- ・自殺者数は減少傾向にあるものの、小中高生の自殺は増加傾向である。これを受け、令和7年に自殺対策基本法の改正が行われ、子どもに係る自殺対策の推進が明記された。
- ・逗子市では、自殺対策計画推進担当者会議・懇話会の中で子どもに関わる部署・関係機関と引き続き連携を取っていく。

(2) 令和7年度自殺対策事業の評価について

<事務局より>

(資料2に沿って概要説明)

- ・昨年度自殺対策事業について、取り組みの4本柱に沿って各課の評価をまとめた。この評価について、ご意見などあればいただきたい。

<メンバーより>

(評価について異論なし)

- ・「3 地域・庁内組織間における連携の強化」についてB評価をつけた理由は何か。

<事務局より>

- ・「3 地域・庁内組織間における連携の強化」のB評価については、「6 庁内及び関係機関への情報提供等」において、庁内部課長会議での報告ができなかったことが理由である。

(3) 令和7年度自殺対策事業について

<事務局より>

(資料3に沿って概要説明)

- ・今年度の当課での自殺対策事業の予定を、取り組みの4本柱に沿ってまとめた。ご意見などあればいただきたい。

<アドバイザー・メンバーより>

(予定について異論なし)

- ・AIについて、便利である一方、怖さもある。一步間違えば自殺に結び付く可能性があると思っている。行政として、AIの危険性や適切な使い方についても取り上げていただきたい。
- ・AIが普及した現在でも、相談件数はむしろ増えている。中にはAIを通してカウンセラーの存在を知り、相談につながっている事例もある。AIはこのような良い面もあるが、自傷行為を助長するような情報も得ることが出来るなどの悪い面もある。AIも使い方が次第だと感じる。また、AIの普及により、リアルでしか味わえないグループワークや学校での体験に価値を見出す子どもと、学校や人間関係が不要だと捉える子どもで2極化している印象を受ける。

<事務局より>

- ・子育て支援課では親子向けにSNSとの付き合い方についての講座を行っているが、現段階ではAIに特化した講座はない。いただいたご意見については、関係課に共有させていただく。

3. その他（「逗子市地域福祉計画進行管理表」について）

<事務局より>

（資料4に沿って概要説明）

- ・逗子市地域福祉計画は、本計画や健康増進・食育推進計画の上位にあたる計画。昨年度取り組み状況をまとめたものを確認いただき、懇話会の意見をいただきたい。

<アドバイザー>

- ・事業費が少ないながらも、SNSなどを効果的に活用しながら事業を推進していることは評価できる。
- ・子供が「死にたい」と思うのは社会問題として取り組んでいくべき。いじめ問題についてもいえることだが、「なぜ起こってしまうのか」という視点が必要ではないか。子どもへの自殺対策の強化については、引き続き進められたい。

<メンバーより>

- ・事業の一覧を見ると、1次予防、2次予防が中心であると見受けられる。3次予防（事後対応）についてはどのように実施するのか。
- ・相談に来る子どもたちの中には「死にたい」という相談を先生にしたが満足な対応が得られなかったと話す者もいる。教職員向けゲートキーパー講座（以下、GK講座）もやっているのだから、より実際に活かせるようにできるとなお良いと思う。
- ・令和7年度自殺対策事業については、自己評価が厳しいのではないか。十分取り組めている。
- ・「⑤市役所庁舎内トイレにLINE相談案内を配架」について、小学校のトイレなどにも案内を配架できたら良いのではないか。一人になれるタイミングで、相談先や「あなたは1人ではない」というメッセージを伝えられると良いと思う。
- ・小中学生に対しては、各自が持っているタブレット端末を活用するのも良いのではないか。
- ・タブレット端末に自身の悩みをまとめてカウンセリングに持って来る子どももいる。タブレット端末は子どもたちの生活に馴染んでいるため、効果的な活用方法があるはずだと考える。

<事務局より>

- ・3次予防に関しては、鎌倉保健福祉事務所を中心に広域的に取り組んでいるものがある。
- ・ご意見をまとめて「逗子市地域福祉計画進行管理表」に記載させていただく。
- ・教育委員会との連携を深めて、現場で活かせるよう働きかけていく。

- ・その他、各メンバーからもご意見や取り組みなどご紹介いただきたい。

<メンバーより>

- ・3次予防については、未遂者支援について、地域のクリニックとの連携を模索しているところである。措置入院の退院支援についても取り組んでいる。対象者を孤立させないために、関係各所と連携している。
- ・警察としては、近年、家庭内への積極的な介入を進めている。しかし、警察という特性上、強制力はあるものの継続的な支援は難しい。特に子どもの自殺対策では、家庭の問題も大きいので親に対する支援も含め、長期的な支援が必要であると考えている。
- ・令和7年度に行ったところの健康講座に参加したが、参加者は関心した様子で講座を聞いていた。とても良い講座だった。
- ・メンタル面で悩みを抱えている親は多い。子どもへの影響を考えると、ケアしていかなければと思うが、どうかかわっていけばよいか、課題に感じる。
- ・生活困窮者の対応などを行っている。関わりに悩むこともあるが、行政とも連携し、対応に当たっている。
- ・GK 講座により、つながる子どもは増えたが、相談件数の多さに対して、支援者側の供給が追いついていないと感じる。また、オーバードーズ（以下、OD）が増えたように思える。AI に薬の種類、量まで具体的に質問することができるようになったことが一因でないかと思う。しかし、OD について相談に来てくれること自体は、良いことである。
- ・経済的な問題から精神的にも余裕のない生活、ゆとりのない生活を送る人が増えているのではないか。
- ・こころの健康講座では、グループワークがあり参加された方の思いが聞けて良かった。各講座について、時間配分についても工夫し、より魅力的なものだと発信していけると良い。

<アドバイザー>

- ・AI は便利だが、その人の状況に合った返答をするとは限らない。AI や SNS は、良い面も多々あるため、使いこなしていくことが重要であると考えている。
- ・懇話会は、市民の声を聞き、施策に生かしていくための貴重な機会だと考える。

4. 閉会

- ・今回いただいた意見は担当者会議でも共有させていただく。
- ・この場でしか聞けない意見や視点を知ることができた。子どもの自殺対策についても、社会全体で進めていくことが大切であると再認識した。庁内で連携を取り、自殺対策を推進していく。

- ・次回懇話会は、令和9年1、2月頃を予定。改めて日程調整の連絡をさせていただく。

以上